

# 令和4年度大分教育事務所 重点方針

～子どもの力と意欲の向上に向けた組織的な取組の推進～

## 1 学校マネジメントの深化（カリキュラム・マネジメント）

### ①資質・能力の明確化【観点Ⅰ】

- ・学校の教育目標を達成するために、教科横断的な視点に立った「学校として育成を目指す資質・能力」の焦点化を図りましょう。（例えば、小学校総則pp.48-52「学習の基盤となる資質・能力」など）
- ・育成を目指す資質・能力をもとに検証・改善を進め、教育課程の見直しにつなげましょう。

### ②学校・家庭・地域との協働【観点Ⅳ】

- ・学校と家庭・地域相互の当事者意識の向上を図るため、双方向の対話を重ねていきましょう。
- ・家庭・地域の困りなどをテーマとした「熟議」をすることで、家庭・地域とともに「子どもに付けたい力（資質・能力）」を明確にしていきましょう。

### ③学校における働き方改革の推進【「1改善運動」の確実な実施】

- ・「学校における働き方改革」の目的を再確認し、仕事に優先順位を付けるなどタイムマネジメントの視点と、組織の機能強化の視点での改革を進めましょう。
- ・チームによる目標達成を目指し、教職員一人ひとりが最大限の力を発揮できるよう、多様なアイデアが出し合える雰囲気大切にしましょう。

## 2 授業改善の徹底（「何を教えるか」→「何ができるようになるか」）

### ①単元を通した指導の充実（「付けたい力」を明確にした単元構想）

- ・単元を通して付けたい力を明確にし、それらを身に付けるために適切な「指導計画」や本時の「ねらい」「〇時／全〇時」「評価の観点」等を設定しましょう。
- ・単元や授業の「振り返り」を、教師のねらう具体的なゴールの子どもの姿として、「子どもだったらこう書くのではないか」「こう書いてほしい」と想定して書くことで、授業改善につなげましょう。

### ②1単位時間の指導の充実（「問題解決的な展開の授業」「生徒指導の3機能」）

- ・「課題」を提示する際は、既習事項とのズレ、疑問や困りなど、子どもの思考の流れを大切に、「子どもと共に創る授業」を目指しましょう。

## 3 いじめ・不登校対策等の推進

### ①子どもたちの「居場所づくり」や「絆づくり」を支える取組の推進

- ・子どもたちがよりよい人間関係や集団生活を形成し、安心して過ごせる学級・学校をつくりましょう。
- ・「人間関係づくりプログラム」で学んだことを日々の授業や学校生活などに生かし、「対話的な学び」や「共感的な人間関係」を大切にしましょう。

## 4 体力向上の推進と健康課題への対応

### ①体力向上プランに基づく1校1実践の推進

- ・体力向上プラン・1校1実践を全教職員の共通理解のもと、学校教育活動全体で組織的・計画的に進め、運動好きな子どもたちの育成を目指しましょう。

## 5 特別支援教育の充実

### ①通常学級における「個別の指導計画」の作成・活用・改善

- ・子ども一人ひとりの適切な指導や支援を行なうため、教育課程に基づく「個別の指導計画」の作成・活用を進めましょう。
- ・日々の授業記録をもとに、目標や指導内容・指導方法が適切だったかを検討し、必要に応じて校内での情報共有や、個別の指導計画推進教員・巡回相談の活用等により、指導や支援の充実を図りましょう。